

### 3. 性格、行動、情緒についての相談

#### ◇うそをつく児童

【Q】 家庭での息子の言動が気になっています。先日、持久走大会に向けて練習している息子に試走の結果を聞いてみると、完走することができなかつたにもかかわらず、10位になったと自慢そうに話していました。他にも、学校での出来事を話してくれるのですが、事実とは違ったことを言うことがあるようです。家では、「うそはついてはいけない」「本当のことを話してごらん」とよく言い聞かせています。うそをつかず、本当のことを話せる子になってほしいのですが、どのようにしたらよいのでしょうか。

【A】 「うそをつく」というのは、一般的に自己防衛の表れの一つです。子どもの対人関係を築く経験の不足や、「うそ」をつかざるを得ない背景などを考えた時、ただ頭ごなしに「うそをついてはいけない」と教えるだけでは、問題が解決しません。また、「うそ」というのは、どこまでが事実なのか見えにくいところもあります。「うそ」をつく子は、自分の「うそ」がわかってしまうことを何よりも恐れるため、疑われていると感じると、極端に反抗したり、また「うその上塗り」をしたりする行動に出ることがあります。そうなるさらさら状況が悪化させてしまいます。そこで、「うそをついた」こと自体を問い直すのではなく、「なぜうそをついたのか」という本人の気持ちや状況把握をすることが大切です。そのために、次のように、お子さんに接してみても、いかがでしょうか。

#### ①「うそをつく」という事実だけでなくその状況全体をとらえる

子どもがどのような時に、うそをつくのかを把握してみましよう。子どもへの対応の方向性がはっきりしてくるでしょう。「うそ」をついたことについて、叱るだけでは本当の解決にはなりません。ごまかさず、自分の失敗や非を認め、素直に打ち明けてくれたら、大いに褒めましよう。そして、周りの大人は、その子らしさを褒め、本人が自分の良い所に気付き、自信が持てるように導いてあげましよう。

#### ②ありのままの自分で過ごせる環境を

うそをつく理由が、親子関係、友達関係などの心理面によるものではないのかを振り返りながら、お子さんとゆっくりじっくりと向き合ってみましよう。親子で一緒に遊んだり、家事をしたりしながら、温かい会話で心を通わせ、何でも話せる雰囲気と関係を持つことが大切です。ありのままの自分を認めてもらえる安心感と他人に対して寛容な心が育まれれば、他人を傷つけたり、自分を大きくみせようとしたりするための「うそ」など、なくなっていくでしょう。